

令和5年度第1回おうめ観光戦略策定懇談会会議録（概要）

- 1 日時 令和5年9月11日（月）午前10時00分～午後0時00分
- 2 場所 青梅市役所2階201会議室ほか
- 3 出席委員
千葉委員（会長） 小澤委員（副会長）、靱矢委員、本橋（大）委員、
嶋田委員、北村委員、村上委員、本橋（あ）委員、横澤委員、小島委員、
金井委員、越前委員
- 4 欠席委員0名
- 5 傍聴0名
- 6 議題
(1) おうめ観光戦略の策定について
(2) 持続可能な観光について
(3) 青梅市の現状について
(4) 意見交換

（配布資料）

- 資料1-1 おうめ観光戦略策定懇談会委員名簿
- 資料1-2 おうめ観光戦略策定懇談会設置要綱
- 資料2 おうめ観光戦略策定懇談会の会議の公開に関する取扱要領（案）
- 資料3-1 おうめ観光戦略の策定について
- 資料3-2 おうめ観光戦略に関する今後の予定（案）
- 資料4-1 持続可能な観光について
- 資料4-2 持続可能な観光ガイドラインカテゴリー一覧
- 資料5-1 青梅市の現状について
- 資料5-2 青梅市の現状について（観光の強み・弱み）

発言者	会議のてん末・概要
事務局	<p>(開会)</p> <p>1 あいさつ</p> <p>地域経済部長あいさつ</p>
事務局	<p>2 会長、副会長の選出</p> <p>(おうめ観光戦略策定懇談会設置要綱にもとづき、委員の互選により会長、副会長を選出することについて説明)</p> <p>委員より、会長を千葉委員に、副会長を小澤委員に推薦する発言あり。異議ないため、千葉委員を会長とし、小澤委員を副会長とすることに決定。</p> <p>(以降、千葉会長により進行)</p>
事務局	<p>3 会議の公開に関する取り扱いについて</p> <p>(会議の公開に関する取り扱いについて、資料2を用いて説明、また青梅市附属機関等の設置運営に関する指針にもとづき、議事録を作成・会議を公開することについて説明)</p> <p>議事録の作成・会議の公開について、事務局提案のとおり決定することで御異議ありますか。</p> <p>(異議なし)</p>
事務局	<p>4 議題</p> <p>(1) おうめ観光戦略の策定について</p> <p>(おうめ観光戦略の策定について、資料3-1、3-2を用いて説明)</p>

会長	意見等、ご発言をお願いします。
委員	青梅市として観光に関わる戦略の策定は初めてになりますか。
事務局	<p>今回、3期目の観光戦略策定になります。第1期目の観光戦略は2017年から2019年までの3年間です。その際に、成果として、OmeBlue（青梅ブルー）ロゴマークを作成し、地域ブランディングを開始したり、現在の青梅市観光ガイド・パンフレット等の作成を行いました。また青梅市観光協会でも継続されて実施している星空観察ツアーなどのツアー造成もしました。</p> <p>それを踏まえ、第2期目は、御岳エリアを中心として、2020年から2022年まで取り組みました。</p> <p>今回、そのコロナを契機として第3期目を策定したいと考えています。</p>
委員	2020年から2022年までは、御岳エリアが中心だったということだが、今回の第3期目はそれを踏襲して策定することですか。
事務局	<p>エリアに関しては、第3期目は市域全域を想定しています。前回、御岳を中心に取り組んだところです。そこで得られた知見やSNSの発信等強化できた部分があるため、それを全市に広げたいと考えています。また、持続可能な観光についても全市を上げて取り組むものと考えているので、今回の観光戦略では市域全域をエリアにしたいと考えています。</p>

委員	<p>戦略の方向性として、第3期は、コロナ以降の戦略となると思うが、コロナ以降だから第1期から変えて、こういうふうな方向性にしているというのは、ありますか。</p>
事務局	<p>資料3-1のところで戦略の方向性に位置付けた四つの方向性があり、コロナ後を見据えたというところでは、まず一つの持続可能な観光地づくりの推進があります。多くのお客様が地域をいらした際のゴミやマナー問題がコロナ前から、かなり世界的においても確認され、青梅市も同様に現在も続いている傾向にあります。</p> <p>地域に負荷をかける観光というのは、世界的にも厳しいため、お客様と地域との調和が図れるような観光を進めていくことが持続可能な観光地づくりであり、そのような方向性で進めていきたいと考えたことが、コロナ後の転換点の一つです。</p> <p>また、お客様に多く来ていただくことを主眼に置かないことになると、観光産業を活性化していくためには、単価を上げる必要が出てくる。そのところで中段4番目、観光資源の高付加価値化にコロナ以降は取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>ただ、観光は、コロナがあるかどうかを問わず地域を活性化する一つの方策だと考えている。ただコロナによって社会は変化し、コロナ前後で課題も変化しているところであるため、委員の皆様にはその辺を意識していただき、ご意見、あるいは提言をいただけるような場にしていただきたいです。</p>
事務局	<p>(2) 持続可能な観光について (持続可能な観光について、資料4-1、4-2を用いて説</p>

	明)
会長	質問があればお願いしたい。
委員	資料4の市の取組で、「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」ロゴマークを取得したと書いているが、その前ページの令和5年3月の国の取組に、令和7年目標として持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数100地域にすることを明記ともあるが、この100地域のうちの一つに青梅市が入ったという認識で間違いないか。
事務局	間違いないです。
事務局	(3) 青梅市の現状について (青梅市の現状について、資料5-1、5-2を用いて説明)
会長	質問があればお願いします。
委員	資料5-1の8ページ、問3の東京都の市や区の割合についてのは、わかりますか。
事務局	調査結果としてはまとまっているが、かなり多岐にわたるため、今回掲載は見送りました。
委員	多摩エリアから多く来るというのは、わかったが、区からどの程度来るのかわかったほうが良いと感じました。

事務局	D S インサイトの G P S 分析の中でも、いくつかの区は来訪者数の 20 番以内に入っているが、大半 20 番目以降に区は、名前が少し出てくる傾向がありました。
委員	それが東京都全体の中の何割ぐらいかわかるとさらに良いと感じました。
事務局	承知しました。 回答アンケートの詳細はあるため、次回に集計して分けたものを提示したいです。今後検討いただく、基礎資料になるかもしれないので、まとめ次第、皆様に共有します。
委員	資料の青梅市全域での来訪者数、来訪者所在地と御岳山で確認している来訪者数、来訪者所在地とで差異があり、傾向のズレがあるのは気になりました。
委員	来訪者について、埼玉県の数人が下がってきているが、これの原因は何かわかりますか。
事務局	埼玉県からの流入に関しては、観光地で起きている現象かそれとも商業行動が原因かの判断が難しいところです。 東部エリアのスーパー付近の人流データを取ったところ傾向として、同じように埼玉県からの流入が減る傾向が見られました。そのため、おそらく観光での移動というよりは、商業行動、日常行動の変化ではないかと考えています。
委員	延べ宿泊者数がコロナ前よりも伸びている傾向にあり、一方でアンケート調査では、日帰りの来訪者数も増加してい

	<p>る傾向がデータ上見えます。民泊も含めて宿泊場所が増えたのか、来訪されるお客様が増えているのか、何か検証として推測できるデータはありますか。</p>
事務局	<p>資料のデータは、観光予報プラットフォームという民間会社の予約データをもとに推計したものになっています。</p> <p>伸びの効果検証に関しては、はっきりとしたところはわかりません。宿泊場所であるホテルや簡易宿泊所が数年で、極端に増えたということはありません。</p> <p>また民泊という新しい宿泊形態が増えていますが、それがこの観光予報プラットフォームの推計上反映されているかは不明です。青梅市で見ると宿泊者数が急回復したように見えるが、都内全体で見ると宿泊者数は西多摩で比べた場合でも、低い方に位置しています。したがって、日帰りではない2割のお客様の伸びがここに該当するというような形ではないかと考えます。</p>
委員	<p>インバウンド関係のデータもありますか。</p>
事務局	<p>インバウンド関係のデータに関しては、事務局側としても課題と捉えており、データ収集方法・手段が課題です。</p> <p>例えば、スマホのGPS情報から人流データを収集する際、前提としてスマホを所持している必要があります。そのため、現状は御嶽駅前の御岳インフォメーションセンターに立ち寄った外国人の方の数を一つの目安にはしています。</p> <p>そのほかのデータ収集の方法・手段について、皆様からこの場でその感触やその傾向でもいいので、情報共有してもらえると助かります。</p>

<p>委員</p>	<p>仮に、インバウンドのデータの中で、来日の人が多いからといって、一概に日本国外からの来訪者とは限らないと考えます。訪日外国人、または横田基地から来られてる方も多はずです。</p> <p>アメリカ、中国、イギリス等、どの国の方かは調査をすることで傾向を捉えることは可能かと思います。</p> <p>ただ、そもそも2年、3年前は外国人来訪者数は全くゼロに近い状態でした。それまでは割と東南アジアが多く、欧米だけじゃなくて、中国の方も食べに来ていた印象でした。</p>
<p>委員</p>	<p>肌感覚では、御嶽駅前や小澤酒造を歩いている方を見ると、日本人はあまり平日はいなく、外国人はかなり多くいる印象です。特に、コロナが徐々に収束し、外国人の数もコロナ以前と全然違うように感じます。</p> <p>小澤酒造、御嶽駅、沢井駅でみる方は、東南アジア系が多いです。</p>
<p>委員</p>	<p>澤乃井園は白人の方が多い印象があります。ほかにも中国からのインバウンドも多いです。</p> <p>秋の御岳溪谷をライトアップした際も、中国人の方がかなり多く来ていました。</p> <p>澤乃井園の場合は、ほとんどは観光客ではなく、横田基地から来訪者と居住されてる外国人の方ではないかと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、御岳山を訪れる方は、必ず御岳ケーブルカーを使うので、そこでアンケートなど情報収集が効果的ではないかと思います。</p>

委員	東京観光財団（TCVB）が、今年の1月から2月にかけて収集したアンケート調査データがあったと記憶しています。確認してみると参考になると思います。
委員	<p>インバウンドのお客様について、私のところの民泊で言えば8割以上が日本に在住していない外国人の方です。</p> <p>実際にインバウンドを日々対応している事業者としては、データと、かなり肌感覚とは違うと思います。</p> <p>例えば、資料では宿泊日数別に4泊以上がゼロとの記載がありますが、私のところの来る外国人の方は、大体1週間単位で予約があり、特に日本在住ではない方が多いです。</p> <p>調査結果は、あくまでも傾向であり、私たち事業者の現場の状況とは異なるところがあるため、どこまで状況を正しく捉えられているかは、疑問があります。</p>
事務局	<p>観光予報プラットフォームのデータについては、国内の予約サイトでの動きをベースに、日本人を捉えてると思われます。</p> <p>委員の御意見のとおり、民泊を利用される方は、Airbnb等、別の媒体を海外の方は使われるケースが多いのではないかと考えています。そのため、インバウンドの宿泊をこれだけで捉えられるとは、考えていません。</p>
会長	<p>(4) 意見交換</p> <p>それでは各委員から順にご意見お願いします。</p>
委員	私は海外インバウンド、特に富裕層の方々との対応が多いです。日々の対応を通じて感じることは、豊かな自然、文化資源、観光資源は多くの地域に存在しているということで

	<p>す。しかし、観光資源があるだけでは不十分で、その上に付加価値をつけることが重要です。特に富裕層向けのインバウンド誘致を考えると、ソフトの部分での付加価値が必要となります。</p> <p>例として、通訳の場合です。外国人向けの通訳は、両方の文化的背景を理解し、適切に伝えることが求められます。私も小澤酒造さんの蔵見学で通訳として参加することがありますが、日本の文化や習慣を理解していない外国人にとって、神棚やしめ縄のような日常的なものも興味の対象となります。そのため、通訳者は受け手の観点や興味を理解し、適切な情報を提供することが求められます。</p> <p>このようなソフトの部分での付加価値は、観光資源をより魅力的にするために非常に重要です。通訳の例を挙げましたが、同時通訳と逐次通訳の違いのように、通訳者がどれだけ背景を解釈し、適切に伝えるかがキーとなります。</p> <p>2022年度に市では持続可能な観光の人材育成が行われてたとのことですが、インバウンドを対象とした受け皿の整備や、ソフトの部分での付加価値の提供は、今後の青梅市の観光発展にとって非常に重要だと考えます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。次、お願いします。</p>
委員	<p>和歌山県の熊野古道では、既に英語を話すガイドの育成が進められており、その取り組みは参考になると感じます。</p> <p>私自身、青梅ではインバウンドの取り組みは少ないものの、富士山の河口湖でのマラソン大会などの受け入れを経験しています。青梅においては、英語が母国語であるにも関わらず、主に日本人向けの登山ツアーを行っています。</p>

	<p>コロナの影響を受けて、インバウンドの重要性を再認識しましたが、日本人のお客様も大切にしなければならないと感じています。インバウンドが増えると、一部の日本人からは不満の声も聞かれることがあります。そのため、日本人観光客とインバウンドのバランスを取りながらの取り組みが重要であると考えます。</p> <p>私はインバウンド関連なら何か手伝えることができます。今回、この懇談会に参加し、月1回の意見交換をすることはわかりました。しかし、具体的な取り組みやアクションについては、お互いのスキルや知識を活かして、戦略だけでなく実行に移す方向性を模索したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。次、お願いできますか。</p>
<p>委員</p>	<p>事務局からの報告として、青梅市が日本版持続可能な観光ガイドラインにもとづいてロゴマークを取得したことは、都内で2例目として非常に評価されています。このような取り組みは、市の観光のブランディングやプロモーションにおいて大きな武器となると考えています。サステナブルツーリズムに関心を持つ人々が青梅を訪れるためには、青梅がサステナブルツーリズムの先駆けであるという認識を強化する必要があります。</p> <p>具体的な提案として、大規模なハードの整備やコンテンツ開発よりも、簡易的な共通アクションの導入できればよいと考えます。例えば、「青梅サステナブルツーリズム10ヶ条」を設定し、観光や飲食を楽しむ際のガイドラインとして提供することで、訪問者の協力を得る取り組みが考えられます。</p> <p>また、ターゲットとして、高尾山を訪れる観光客を取り込む</p>

	<p>ことも考えられます。高尾山はミシュラン三ツ星を取得したお店があり、オーバーツーリズムの状態にあるため、その流れを青梅に向けることで、新たな観光客を獲得するチャンスがあると考えます。青梅はまだ未開拓で、深い体験や豊かな自然を楽しむことができるため、高尾山の観光客を誘致することを考えてもおもしろいと思います。</p>
委員	<p>観光消費額について、青梅は1000円から5000円がボリュームゾーンということでしたが、高尾山と比較し分析することも重要かもしれないと感じました。</p>
会長	<p>高尾山と比較した場合、宿泊施設の数と消費額が比例する可能性があります。</p> <p>高尾山周辺も日帰り観光が多いと想像しますが、インバウンド向けの雑誌への掲載など以前から高尾山が掲載されていました。今後の比較として必要かもしれないですね。</p> <p>事務局で調べられたらいいかもしれません。</p>
会長	<p>ありがとうございました。次、お願いいたします。</p>
委員	<p>観光産業の高付加価値化は非常に重要だと感じています。</p> <p>岩蔵温泉での取り組みを通じて、青梅の宿泊施設の不足や日帰り客の多さを実感しています。</p> <p>泊まる理由として、夜や朝のコンテンツが提供されると、観光客は宿泊を選択し、結果的に地域にお金を落とす可能性が高まります。先ほどの星空観察のような新しいコンテンツの提案も非常に興味深いと感じています。</p> <p>私が現在取り組んでいる岩蔵温泉は、温泉地としてはまだ知名度が低く、施設も1軒しかありません。そのため、温泉だけでは魅力が伝わりにくいと感じています。しかし、「温</p>

	<p>泉×農業」や「温泉×芸術」といった組み合わせでのサービス提供を考えており、このようなアプローチで青梅のハード面の弱さを補完できるのではないかと考えています。</p> <p>さらに、青梅の歴史や文化は非常に豊かで、特に外国人観光客にとっては、普通の民俗や文化、例えば岩蔵のわらじの文化などが新鮮に映ると考えています。これらの文化や歴史を活かしたソフト面の強化を進めていきたいと思っておりますので、今後の取り組みにご期待いただければと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。次、お願いいたします。</p>
委員	<p>先ほど高尾山に関する話題が出ましたが、御岳山も高尾山とよきライバルとして、その上を目指すという方針でブランディング活動を進めています。御岳山は単なる山ではなく、高尾山にはない特色や施設を持っています。その点を強調し、広く発信することで知名度を上げる取り組みを行っています。例として、御岳山の特色を示すロゴマークの掲示などの活動を進めています。</p> <p>高尾山には混雑の問題があり、そのために御岳山を訪れる方も増えていると感じています。御岳山や青梅の観光地としての魅力は、御岳沢井などの地域が中心となっていますが、青梅市内にはほかにも多くの観光名所や文化的資源があります。それらを周遊してもらうために、交通のアクセスや回遊ルートの整備が必要だと感じています。</p> <p>また、青梅市内の宿泊施設の不足も問題として挙がっています。かつては多くの宿泊施設が存在していたものの、現在はその数が減少しています。この点も改善することで、青梅市の観光がさらに豊かになると考えています。</p>

会長	貴重なご意見ありがとうございました。次、お願いします。
委員	<p>委員の意見と重複しますが、私たちの地域でも観光協会が公共交通機関として、3年前に MaaS の実証実験を2回行いました。しかし、コロナ禍の影響で結果は芳しくありませんでした。</p> <p>青梅の課題として、観光地間の回遊性の不足が挙げられます。観光資源は豊富にあるものの、それらが微妙な距離で離れているため、効率的な移動が難しいのです。</p> <p>例えば、吉野梅郷で梅を鑑賞した後、多くの観光客はすぐに帰途についてしまいます。過去のデータを見ても、青梅市の観光客数は10年、20年、30年と減少傾向にあります。戦前には御岳は温泉旅館が並ぶ人気の観光地で、ハネムーンスポットとしても知られていました。しかし、現在はそのような旅館はほとんど存在せず、観光客の滞在時間も短いのが現状です。</p> <p>御岳山の魅力は、宿坊に宿泊できる点にあり、これにより滞在時間を増やし、さまざまな場所を訪れることが可能です。この問題を解決するためには、デマンド交通の導入が必要だと感じています。特に青梅市の東部地域ではそのニーズが高いと考えています。もし青梅市でこのような実証実験を進めることができるのであれば、期待したいです。</p>
会長	ありがとうございました。次、お願いいたします。
委員	都心から列車で1時間半でアクセスできる点は、大きな強みと考えます。正直、私自身、このエリアに来るまで、多くの宿坊や豊かな自然があることを知りませんでした。この

	<p>魅力を、国内外のお客様に伝える取り組みが必要だと感じています。</p> <p>先ほど触れられた付加価値の話に関連して、私が担当をしていた業務経験から、お客様が最も価値を感じるのは「人」の部分だと実感しています。コンテンツの存在だけでなく、サービスの質や人手不足といった問題も観光地での課題として存在しています。そのため、ターゲットを明確にして、多様なコンテンツを提供する方針が良いと思います。また、駅からの移動手段、いわゆる2次交通を充実させる必要も感じています。この点に関しても、具体的な解決策を模索する必要があると考えます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。次、お願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>過去3年間、私は「うめたま」の事業を通じて青梅を取材してきました。先ほどの御岳山の話に関連して、10年後に御岳山が高尾山を超えると確信しています。その理由は、御岳山がスピリチュアルな要素を持つ観光地であり、高尾山にはない特色、例えば宿坊や住民の方が神社の仕事に携わっていることや神秘的な要素、ロックガーデンなどがあるからです。</p> <p>青梅の強みは、都心から1時間でアクセスできる点です。都心から1時間で、自然、観光、文化を体験できる場所は珍しいと思います。これは訪日インバウンドの大きな魅力となるでしょう。しかし、情報発信が十分でないため、多くの人が青梅の魅力を知らないのが現状です。この点を改善することが重要だと感じています。</p> <p>また、青梅は昭和レトロな雰囲気を持つ町としての魅力があります。実際、西武遊園地では巨額の投資をして昭和レト</p>

	<p>ロな雰囲気再現していますが、青梅はその雰囲気を自然に持っています。ただ、最近の台風の影響で一部のまちなかの映画看板が失われたりしています。都市開発が進む中で、青梅の独自性を保つことが重要だと考えています。特に駅前の再開発において、昭和レトロな雰囲気を維持し、独自の景観を作ることが大切だと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。次、お願いいたします。</p>
委員	<p>私は最初のおうめ観光戦略の策定に初期段階で委員として参加しました。その際、観光に関する議論が交わされる中、私は外部の立場からの参加で、どのような意見を述べるべきか迷いました。文化財の保護や伝承の観点から、多くの人々が訪れることは喜ばしいことですが、それに伴う弊害、例えば文化財の破損やいたずら書きなどの問題も考慮する必要があります。</p> <p>OmeBlue（青梅ブルー）の企画で、市内を自転車で巡るルートを考案した際、小曾木の田んぼにある石仏を巡る計画を立てました。この石仏は景観的にも素晴らしい場所にありますが、SNSでの情報拡散による石仏の損失を懸念しました。情報が瞬時に広がる現代において、観光地の魅力を発信することは大切ですが、その影響によるマイナス面も考慮する必要があると感じています。</p> <p>青梅は歴史的にも非常に価値のある街で、23区以外の市町村中で、国宝が5点ある中、2点を持つのは青梅市だけです。御岳山は国宝を2点持つ重要な山です。そのため、積極的な情報発信は求められますが、多くの人々が訪れることによる弊害も考慮する必要があると考えています。</p> <p>また、個人的な意見として、青梅の駐車場の数が不足してい</p>

	<p>ると感じています。私は郷土博物館で働いており、近隣の釜の淵公園の駐車場は土日の朝 8 時には満車となり、10 台しか停められない状況が続いています。駐車場の増設が必要だと感じています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。次、お願いいたします。</p>
委員	<p>2 年前まで、私は観光客として青梅を訪れていました。特に、年に 2 回ほど澤乃井園を訪れるほどでした。そういったとき青梅駅での乗り換え時に時間が空いたため、駅前で何か食事ができる場所を探しましたが、目立った場所が見当たらなかったのが印象的でした。ただ、現地の方々の親切さは実際に住むようになってから実感しましたが、その時の第一印象はあまり良くありませんでした。</p> <p>また、最近河辺温泉施設を訪れた際、楽器を持参していたため、荷物の預かり場所について問い合わせたところ、預けることができないとの回答を受け、結局温泉を諦めて帰ることとなりました。このような経験から、地域のホスピタリティの共有や向上が必要ではないかと感じています。</p> <p>さらに、私は青梅で音楽のレッスンを行っており、観光と合わせたレッスンやイベントも企画・開催しています。青梅の歴史的・文化的背景は非常に豊かで、それが私の専門性を刺激しています。来月は津雲邸を使用してイベントを開催する予定です。このような文化的価値の高い場所での活動と、良好な交通アクセスが両立することが、非常に魅力的であると感じています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。次、お願いいたします。</p>

委員	<p>本日は皆様の多様な意見を伺うことができ、非常に有意義でした。私は吉野梅郷に住んでおり、梅の公園を日常的に訪れています。しかし、御嶽や奥多摩などの地域には多くの観光客が訪れている一方、吉野梅郷周辺ではその数は少ないように感じます。</p> <p>梅の公園はかつて日本一の評価を受けていましたが、現在は平日に訪れるとほとんど訪問者を見かけません。都内にこのような公園があれば、多くの人々が訪れるでしょう。また、吉川英治記念館や青梅きもの博物館などの施設も、訪問者の数が伸び悩んでいるように感じます。</p> <p>最近では、コロナの影響から脱している印象があり、檜原村でのガイド活動に参加しますが、25人の募集に対して80人の応募がありました。</p> <p>青梅の現状として、宿泊施設の増加や交通手段の充実が望まれます。特に、日の出町方面の新しいトンネルが完成すれば、青梅からのバス接続や他の温泉地との連携が期待されます。</p> <p>私自身も梅の公園でボランティアのガイド活動を通じて、訪問者との交流を楽しんでいます。最近では赤坂からの訪問者があり、地域の魅力を伝える機会が増えてきましたが、まだまだ連携や情報発信の強化が必要だと感じています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆様話し足りないと思いますが、会議時間の関係あり、本日はこの程度にしたいと思います。</p> <p>次回までに事務局のほうで意見を整理してください。</p> <p>それでは委員の意見交換について終わります。</p>
	5 その他

事務局	(次回懇談会の日程調整。10月23日に決定)
-----	------------------------